

## 検討会の流れについて

○平成27年4月17日(金)第1回検討会

○平成27年6月19日(金)第2回検討会

- ・路面温度上昇抑制機能を有する舗装技術の効果検証計画

○平成27年7月15日～平成27年9月27日 データ取得

- ・国道246号及び関東技術事務所で観測

○平成28年7月19日(火)第3回検討会

- ・路面温度上昇抑制機能を有する舗装技術の効果確認
- ・取組みの方向性(骨子案)

○平成28年8月31日(水) 現地試走会

○平成28年9月27日(火) 第4回検討会(本日)

- ・現地試走会の結果について
- ・緑化の取組みについて
- ・アスリート・観客にやさしい道づくりに向けた提言(案)



対策の本格実施

### ■第3回検討会の指摘事項

大分類	中分類	小分類	指摘事項
舗装	走りやすさ	傾き	保水性舗装は、傾斜地でも保水機能が発揮されるのか。
	性能	湿度等	舗装間で路面温度に差があっても、WBGTは有意な差にならない理由を分析すべき。
			走る人の頭の高さ(150cm)の散水前後の舗装別の湿度の変化を記録した情報はるか。
その他	施工時期	遮熱性舗装は、排水性舗装に遮熱材を塗布するだけなので、大会直前に施工できる。	
緑化	緑陰	緑陰、街路樹は歩道の方に効果があると考えられるが、データに基づいて提言できるとよい。	
	剪定	街路樹の下に灌木があると歩行者が入っていけないので、灌木を切って入っていけるようにすべき。 早朝は東から日が差すので、東側からの緑陰の効果が見込まれる区間では、数年前から剪定における対応をすべき。	
情報提供	気象	路上に出る観客の熱中症対策として、体感温度を含めた自己管理できる情報を提供することが重要。	
		大会期間中、道路がどういう状態か、ミクロな観点でリアルタイムに情報提供することが重要。	
道路空間 利活用	その他	沿道観客の暑さ対策は、沿道を合わせた一つの取組みとしての方向性が必要である。	
その他	散水 ミスト	マラソンコースに10mm散水することは量的に可能か。	
		西欧ではレース前に散水した例はないが、東京ではある程度必要である。	
		当日の気温や湿度を踏まえ、どのような条件なら散水すべきか、数値的に対応を検討しておくとい。	
		遮熱性舗装を採用したときに、水をまかないと考えるのか、水をまいてさらに効果を発現させると考えるのか。	
		ミストはなるべく設置した方が選手は楽である。	